

# 社会学コース



## 社会学コースとは

教員5名それぞれが専門領域はありますが、広く家族、医療、ジェンダー、メディア、文化、エスニシティ、宗教、地域、労働、政策、教育、福祉について学ぶことができます。また、3回生対象の社会学実習では、こうしたテーマについて1年を通して文献研究やフィールドワークによる共同での学びを経験し、報告書を作成します。

コースの特徴は、これら幅広い領域について、理論と調査の両輪のうえで学ぶことができるということです。学生たちは自身の関心を育て、社会を観る目を幅広く培うことができます。それがこのコースの魅力でしょう。



准教授 ひらやま しょう 先生

## 平山先生の研究

最近はずっとケアについての研究を行っています。子どもや高齢者など、自分だけで日常生活を送るのが難しい人に対して、その人の生活や生存を支えること。それがケアです。このケアは、実は支配と紙一重でもあります。ケアを受ける人は誰かに対して、いわば自分の生殺与奪の権をあげなければいけないからです。その意味で、ケアを必要とする人は、誰かに支配されるリスクに常にさらされた弱い存在です。そうした弱さを抱える人が、どうしたら誰にも脅かされることなく安心して生きていけるのか。また、そんな難しいケアを担う人が特定の誰かに偏ることのないよう、その責任をみんなに分け持つにはどうしたらよいか。社会学だけでなく看護学や社会福祉学などの研究者ともコラボしながら考えています。

## 社会学コースを選んだ理由

小さな頃からテレビっ子で、ドラマやバラエティや報道番組などジャンルを問わず、テレビに張り付いていました。その結果、子どもの頃から社会問題に関心を持ち、それについて考えたりする機会が多く、より深めたいと思い、入学当初から社会学コースに入ることを考えていました。

## 社会学コースの魅力

一つの文献についてコース生で意見交換や議論をし、自分にはない視点に気づくことができたり、自分の意見を深めてもらえるのは魅力的と感じます。個人的には、価値観のアップデートについても考えさせられるため、社会を生きる上ですごく大切なことをたくさん学べていると感じます。

## 卒論テーマ例

- ・余暇活動にジェンダー・ギャップは存在するのか—時間量・行動頻度という視点からの実証分析—
- ・参加型文化としてのアイドルファン行動—「PRODUCE101 JAPAN」のファンはどのような思いで協働しているのか—
- ・技能実習制度を利用する雇用者の語り—大阪府の製造業中小企業3社を例に—

## 面白いと思った専門科目

「科目名」社会学研究法Ⅱ  
この授業では『質的調査』という調査方法について学びました。一度だけ、実際に自分で出向いて観察調査をするという機会を与えてもらったのですが、コロナで実習が全くなかった私にとってはその一回がすごく楽しかった上、みんなで結果のすり合わせをしたのも楽しかったです。

## 社会学コースにとっての『とびら』とびら

社会学コースに固有の「とびら」を私が代表して語るのをおこがましいので控えますが、少なくとも私は授業の中で、学生さんが自分自身に出会い直す「とびら」を見つけたいと願っています。言い換えれば、自分の中の標準を問い直すきっかけとしての、社会的なものの方です。上のケアの例に即しいうと、ケアは一般的に「よきもの」として考えられがちです。でも実は、支配関係に転化してしまいかねない怖い面もある。では、どうして自分はその怖い面に気づかなかったのか。ケアを「よきもの」としてしか見ないことで、どんな人々の、どんな経験を見落としてきたのか。そうやって自分の拠って立つ標準を疑い、その意味で、自分自身と出会い直してみる。社会的なものの方には、そのための「とびら」になるはずですし、また、その「とびら」は、自分とは異なる標準のもとで生きる人々と、ともに生きるための作法としくみを考えることにも繋がるはずです。（文・平山先生）



3回生 くれもと ともか さん  
呉本 智華 さん

